

10

October
2025

〔月刊〕キリスト教書評誌

本の

HON-NO-HIROBA

ひろば

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2025年10月1日発行(毎月一回1日発行)第814号

出会い・本・人

東北を日本のスコットランドに

藤野雄大

特集シリーズこの三冊！

聖書に促された現代作家による

日本のキリスト教文学なら、この三冊！

柴崎 聰

本・批評と紹介

N・T・ライト 著／津村春英 訳

N・T・ライト 新約聖書講解 4

すべての人のためのルカ福音書 松本敏之

J・ペリカン 著／本城仰太 訳 クレド 小高 毅

小友 聡 著 聖書のことば辞典 真壁 巖

H・ノーマン・ライト 著／前島常郎 訳

悲しみを道連れに生きる25のヒント 斉藤善樹

エーティンガー 著／喜多村得也 訳

ドイツ敬虔主義著作集 7 自伝 若松功一郎

関西学院大学キリスト教と文化研究センター 編

戦争の記憶と想起 寺園喜基

カリストス・ウェア 主教 著／柳田洋夫 訳 イエスへの祈り 松島雄一

村上純子 著 子どもと育ちあうために レオン・蔡香

大島 力 著 イザヤ書を読もう 下 並木浩一

豊川 慎 著 今、「平和」とは何か 岡田 仁

神学と社会理論

世俗的理性を超えて

ジョン・ミルバンク著／原田健二郎訳

現代の古典、
希望の邦訳！

9月25日



ポスト・リベラル神学を主張する「ラディカル・オースドキシシー」の出発点。アングロカトリックの伝統に連なる断固たるキリスト教社会主義者の面目躍如たるものがあり、また現代思想との対論は極めて刺激的。2006年の第2版に基づく待望の邦訳。
A5判・定価9350円

イザヤ書註解Ⅱ 11-27章

ジャン・カルヴァン著／堀江知己訳

A5判・定価8470円



改革者がヘブライ語の深い知識に基づいて、いかに真剣に預言書に取り組み、その使信をキリスト中心に読み解こうとしているかが如実に伝わってくる。全5巻予定。

マルティン・ニーメラー

ヒトラーに逆らった牧師

英雄視を排して
その素顔に迫る

マシュー・ハケネス著／穂田信子訳



元Uボート艦長で一時はナチを支持した保守的牧師がヒトラーの教会政策に反発して強制収容所に囚われた。戦後は、ドイツの教会の罪責告白を主導し、また冷戦下で平和運動の旗手として活躍した。その激動の生涯をアメリカの気鋭の歴史家が辿る。四六判・定価4400円

イエスへの祈り

大反響

主教カリストス・ウェア著／柳田洋夫訳

「主イエス・キリスト、

神の子よ、私を憐れんでください」この短い祈りは東方教会で長く親しまれてきた射特である。本書は、この祈りの歴史、その豊かな神学的意味、祈りの実践方法を正教会の第一人者が懇切に解説し、私たちを祈りの生活へと促す。B6変・定価1870円



ユーモア実践

人生を楽しむ7法則

宮平望著

注目！

ユーモアはレトリックというトリック技術を駆使して、月並みな言葉を笑いに導く。この技術を網羅的に精査し、豊富な例示と共に7つの法則を導き出す。既刊『ユーモア入門』に続く第2弾！
A5判・定価1650円

ロゴセラピーのレッスン

フランクルの21の知恵

P・ロイ、M・フンメル著／赤坂桃子訳

ロゴセラピーにおいて最も重視される「精神」。それを自分自身でケアするために、人生において大切な21のテーマに沿って、フランクルの著作から珠玉の短文を厳選し問いと省察を深める。コンパクトな生き方ガイド。

B6変型判・定価1870円

東北を日本のスコットランドに

藤野雄大



東北に移り住んでから6年目を迎えました。東北学院大学への着任を機として、以前から関心のあった東北地方で活躍した宣教師たちの事績を研究するようになりました。特に3年ほど前からは、近隣の「牧師仲間」と共に勉強会を月一回開催しています。

この勉強会では、毎回、19世紀後半から20世紀前半にかけて東北地方で活躍した宣教師に関する英文の書物を翻訳し、意見を交換しています。最初は、山形・秋田両県で活躍し、「両羽の使徒」と称された合衆国改革派教会の宣教師H・H・クック先生の伝記を読破しました。現在では、クック先生と同じく合衆国改革派教会の宣教師で、主に福島県の会津地方で活躍し「会津の使徒」と称されたクリストファー・ノッス先生の『東北：日本のスコットランド』（原題：Tohoku, the Scotland of Japan, Board of Foreign Missions, Reformed Church in the United States:

Philadelphia, Pennsylvania, 1918）を読み進めています。

「東北を日本のスコットランドに」。この言葉は、東北学院の草創期を支えた宣教師や日本人牧師たちが好んで用いたものでした。この言葉は東北地方とスコットランドが地理的条件や人口規模、歴史的・文化的背景が類似していることから生まれたものです。しかし同時に東北の地にキリスト教的理想社会を建設したいという彼らの情熱を示すものでもありました。

宣教師の著作を読むことで、地域社会とキリスト教との文化的・歴史的関わりを知ることができるだけではなく、彼らの日本社会への思いに触れることで、大いに励まされ、慰められています。気心の知れた仲間との勉強会の中で、一人で本を読むだけでは得られない喜びや発見を感じています。

（ふじの・ゆうだい＝東北学院大学准教授・日本基督教団教務教師）



▼シリーズ この三冊！

聖書に促された現代作家による 日本のキリスト教文学なら、この三冊！

柴崎 聰

しばさき・さとし…日本聖書神学校講師、詩人

私は次のように「キリスト教文学」

を定義しています、「作者がキリスト教

徒でない作家・詩人であったとしても、

その文学的発想や営為の根拠に、キリスト教や聖書があり、そこからのメッセージと融和し、あるいは格闘しながらも、それに捕らえられ促されて表出する魂の文学である」と。

以下に取り上げる三人の作家は、私が調べた限りでは、キリスト者ではありません。しかし、これらの作品を生み出す力を補給し続けたのは、キリス

ト教であり、聖書なのです。

飯嶋和一『出星前夜』

飯嶋は、一九五二年、山形県山形市に生まれ、法政大学文学部を卒業後、中学校教諭、予備校講師などを経て、作家生活に入ります。

江戸初期に起きた「島原の乱」を、弾圧される側から重層的に描出した『出星前夜』（二〇〇八年）で第三五回大佛次郎賞を受賞しました。

キリシタン一揆として知られる島原

の乱がなぜ起きたのか、二万七千人もの蜂起勢がほぼ全員殺害されるに至った経緯が緻密で重厚な筆致のもとに描かれますが、本作品においては、天草四郎（本書ではジェロニモ四郎）はあくまでも脇役です。

作者は、土に生きようとするかつての有馬家重臣の鬼塚監物（けんちゅう 庄屋の甚右衛門）とイスパニア人を祖父に持つ青年寿安を描いて、「島原の乱」の真相を明らかにしていきます。乱の十年後、元号が慶安に変わって間もなく、一人の医家が大阪において開業しました。

ここの医者は、長崎に生まれ、オランダ人の血が混じっているとされていて、逃禅堂北山友松と名乗っていました。その特異な風貌から「ジュアン」と通称されることが多くなります。スペイン名の「Juan」は「ファン、ホアン」と発音し、聖書によく登場してくるヨハネのことです。

貧窮する者には無償で施薬を行うため、昼夜休みなく診療を行っても寿安の暮らし向きは一向によくありませんでした。いつの間にか「寿安サマ」という呼び名は、貧乏医者を指す代名詞として使われるようになります。

病児を抱える親たちが、とある星を「寿安星」と呼び、その星に快癒を願う姿が見られるようになったのは、北山寿安がこの世を去ってまもなくのことでした。

「出星前夜」とは、クリスマス・イヴのことではないのか、作者は作品を完成し発表してから、そのことに気づいたのではないか、と思われてなりません、読者がその深意に気づくほんの少し前に素早く。

原田マハ『奇跡の人 The Miracle Worker』

原田は、一九六二年、東京都小平市に生まれました。関西学院大学文学部

日本文学科、早稲田大学第二文学部美術専修を卒業し、馬里邑美術館、伊藤忠商事、森ビル美術館設立準備室、ニューヨーク近代美術館に勤務して、フリーのキュレーター（学芸専門委員）として独立します。

『楽園のカンヴァス』（二〇一二年）で第二五回山本周五郎賞と第五回Rー40本屋さん大賞を受賞しました。続いて『総理の夫』『奇跡の人』『暗幕のゲルニカ』など矢継ぎ早に作品を発表しています。

ペンネームのマハは、インタビュー記事によれば、スペインの画家ゴヤの作品《裸のマハ》《着衣のマハ》に由来するそうです。二十代から美術評論家の高階秀爾に私淑しています。

小説『奇跡の人 The Miracle Worker』

（二〇一四年）は、三重苦を克服して生きたアメリカの著述家・講演者であるヘレン・ケラーが書いた『奇跡の人

——ヘレン・ケラー自伝』が元になっています。自伝では「奇跡の人」とは、ヘレンを導いたサリバン女史のことですが、小説では、弱視の去場安（サリバンがモデル）であるとともに、介良れん（ヘレン・ケラーがモデル）の二人を指します。

安は、「神の作りたもうたこの世界で、神のみもとで、私たちは、誰もが等しく学ぶ権利を持っているはずだ」というキリスト教信仰に励まされて、甘やかされ粗暴に育てられたれんと渾身の力で闘いながら彼女を導いていきます。れんとほぼ同世代の盲目の女旅芸人狼野キワが重要な役回りを引き受けていて、二人の魂の温かな交感がいかに細やかに語られます。

物語は、安とれんのすさまじい闘いが繰り広げられた一八八七年の過去を、一九五四年と五年のキワを描いた穏やかな現在が前後に挟み込むような構

成になっています。

過去の主たる舞台は、青森県北津軽郡金木町かなまぎです。そこは紛れもなく作家・太宰治の生まれ故郷ですから、作者の太宰に対するオマージュ（敬意）が間接的に暗示されていると言えます。

自伝同様、小説においても、指文字によって言葉と物との関係をれんが初めて認識して回心する場面は感動的です。聴力を失う以前に聞いて声に出して言ったことのある「水」という言葉が、実体の水と一つにつながった極め大切な瞬間でした。

角田光代『方舟を燃やす』

角田かくたは、一九六七年、神奈川県に生まれました。早稲田大学第一文学部文芸専修を卒業して作家生活に入り、『対岸の彼女』で二〇〇五年に直木賞、『日目の蟬』で二〇〇七年に中央公論文芸賞、本書で二〇二五年の吉川英治文

学賞を受賞しています。

エッセイによれば、幼いころからプロテスタントの教会が運営していた保育園や同系の小学校に通い、礼拝し聖書を読み賛美歌を歌っていたとのこと。高校卒業後は、キリスト教から少しく距離を置いていると述べています。

この小説名にある「方舟」は、紛れもなく旧約聖書創世記に登場するノアの方舟のこと。主要な登場人物は柳原飛馬ひうまと望月不三子です。

飛馬が生まれたのは一九六七年で、育ったのは、神戸の山間の小さな町。世界が減びるというノストラダムスの大予言を信じたこと、最愛の母を子宮がんで喪うしなったこと、占いの一種コックリさんに夢中になったこと、東京の大学に進学し、公務員の道を歩むことになったことなどが淡々と語られます。結婚しますが円満に離婚、一人の生活を始め、ボランティアに専念します。

不三子が生まれたのは、敗戦直後。

キリスト教系の病院へバスで通ったこと、礼拝にも参加したこと、玄米中心の食生活をしてきたこと、三種混合ワクチン接種に悩んだこと、自然療法や食事法に凝ったこと、加えて関西を襲った大地震も経験します。夫に先立たれますが、現在、娘、息子とも必ずしもいい関係を築けてはいません。

年齢も育った環境も異なる二人が、何年かを経て静かに出会ったのは、教会が運営していた子ども食堂でした。二人ともボランティアとして働きますが、教会という隔ての中垣を楽々と越えています。やがて新型コロナが流行し、人々は極度の制限を受け始めます。そんな中でも教会の子ども食堂は再開されます。何を生きる糧として選ぶのか、様々な情報に翻弄される主人公たちが描かれます。

小説の最終部で、大型台風が襲来し、



『出星前夜』
飯嶋和一：著
小学館
2013 年
文庫判
720 頁
964 円

避難指示が出ます。飛馬はひとり暮らしの不三子避難させるために彼女の家を訪ねますが、その不三子が子ども食堂で気にかけてきた母子家庭の少女園花^{そのか}も連れていくと言いつち出します。その少女が今度はいるかいないかわからない公園の野良猫を気にかけます。

不三子は、教会で聞いたことのあるノアの方舟のことを想起します。「神さ



© 原田マハ／双葉文庫

『奇跡の人——The
Miracle Worker』

原田マハ：著
双葉社
2018 年刊
文庫判
432 頁
794 円

まを信じた男の家族と動物たちだけは、助かって生き残る。(中略) 神さまの世界はなんと秩序だつていて、人間の世界はなんとちゃめちゃんだろう。」その直前に不三子は、巨大な建物が燃えるさまを脳裡に思い浮かべていました。

書名にふさわしいと思われる「燃える」という自動詞が、なぜ「燃やす」



『方舟を燃やす』
角田光代：著
新潮社
2024 年刊
四六判変形
432 頁
1,980 円

という悪意を含みそうな他動詞にあえて変えられているのか。疑問は疑問のままにその解釈は読み手にすべて委ねられることになります。

私は、実人生にやってきた噂や予言や有象無象のこだわりを方舟に閉じ込めるだけではなくて、焼き滅ぼすほどの強い意志を込めた結果なのではないかと思っています。

聖書全体から説く 「新たな脱出」としての福音

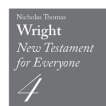
〈評者〉**松本敏之**

本書は、N・T・ライトの「すべての人のための」シリーズの五巻目である。これまでで最も分厚い巻となっており、全部で八九の単元から成り立っている。

本書の大きな特徴の一つは、イエスの働き全体、特にガリラヤからエルサレムへ向かう旅（九・五一以下）を、「新しい出エジプト」として捉えていることであろう。その「旅」は、エルサレム入城（一九・二八）で終わるのではなく、最後の晩餐、十字架と復活へと続き、エマオでの食事へと向かう。多くの単元がそのことに関係づけられる。

例えば、「イエスの変貌」の単元で、ルカだけが「イエスがエルサレムで成就することになっている最期（ライトの私訳、傍点評者）」（九・三二）という言い方をしていることに注目し、次のように述べる。「『最期』（この世を去る）という語は、出エジプトと同じ語です。ルカがこの語

Luke for Everyone



N.T.ライト
新約聖書講解 4

すべての人のための
ルカ福音書

N.T.ライト（著） 津村春英（訳）

教文館

N・T・ライト新約聖書講解 4

すべての人のための
ルカ福音書

N・T・ライト 著

津村春英 訳



を選んだ理由は、エジプトからの壮大な脱出は、イエスが遂げようとされている死にあたるからです。新しい出エジプトでは、イエスがすべての神の民を罪と死の奴隷から導き出して約束の地——全世界が贖われるという新しい創造——へと誘導してくださるのです」（二八二頁、一部略）。

ルカ福音書全体、また各単元を、聖書全体の大きな文脈の中に位置づけていることも見逃せない。ライト自身が、「私たちが旧約聖書を、イエスにおいて自然に頂点に達するように見るときにのみ、それを理解することができま

す」（四三八頁）と述べている。

例えば、「放蕩息子」の譬えの単元では、バビロン捕囚に言及し、次のように述べる。「イエスの時代の人々の多くは、彼らがまだ事実上、捕囚の中にあり、悪の中にあり、暗闇の日々の中にあり、異邦人支配の中で生きていると考

えていました。彼らは、神が新しい出エジプトを創出してくださるのをまだ待ち望んでいました。つまり、神が、彼らをその霊的、社会的捕囚から連れ出し、彼らの幸福を決定的に回復されるときです。異国の地で失われていた悪しき息子が、贅沢なパーティーをもって迎え入れられたと語るイエスの話は、イスラエルの希望と関連付けられて聞かれなければなりません」(二八三頁)。

「エマオでのイエスの顕現」の單元では、「二人の目が開け」(二四・三一) たことが、創世記三章で最初の夫婦が禁断の木の実を食べたことで「二人の目が開かれ」たことと関連付けられ、「長い間の呪いが解かれ」、「命と喜びと新しい可能性に満ちた神の新しい創造が……飛び込んできたのです」(四三七頁)と述べる。

また随所に新鮮な解釈がある。たとえば、「マルタとマリアの間の本当の問題は、マルタの台所仕事ではありません。……本当の問題は、マリアがあなたかも男性であるかのようにふるまいをしたことにありました」。(「ルカは」イスラエルの民の男女間の境界線を引き直しています」(二〇三頁) というような言葉に、私ははっとさせられた。できれば一日に一單元ずつ読むなど、じっくりと味わっていたきたい。宝物がたくさん含まれている。説教者にとっても、多くの気づきが与えられ、黙想のよき手引きとなろう。著者の聖書私訳も、示唆に富んでいる。翻訳も優れたもので、訳者の労に心から感謝したい。

(まつもと・としゆき 鹿兒島加治屋町教会牧師)
(四六判・四六六頁・定価四一八〇円・教文館)

ナウエン・セレクション《第7回配本》

新しい生き方 イエスについての七つの手紙

ヘンリ・ナウエン 渡辺順子 訳 英隆 朗 解説



新しい生き方
Letters to Myself
About Jesus:
Living a Spiritual Life
with Jesus Inside

20世紀を代表する霊的指導者ナウエンによるキリスト教入門の名著。信仰生活とは何かを手紙の形で丁寧に説き明かす。
四六判 並製・160頁・定価2200円

平和を受け継ぐ者に

戦争証言・使命・祈り

奥田知志 編



平和を受け継ぐ者に
奥田知志 編
広島、長崎、沖縄、引き揚げ、本土空襲、宗教弾圧……「信徒の友」に掲載された戦争体験者の証言と平和への思いをどう読み、応え、歩み出すか。
四六判 並製・144頁・定価1650円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457

E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)

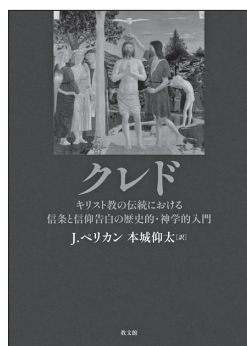
<https://bp-uccj.jp>

第二カイア公会議から二七〇年の今 信条と信仰告白の意味を問う

〈評者〉 小高 毅

本書の帯には「古代から現代までの膨大な文献を渉猟し、信条と信仰告白の定義・起源・権威・歴史を詳述した記念碑的著作」と謳われている。

本書冒頭に、ここで取り上げられる「信条と信仰告白の略語」が表記されているが、その数は二六五に及ぶ。そこには宗教改革期に出された諸「信仰告白」のみならず、トリエント、第一、第二ヴァティカン公会議の公文書、さらには「教皇ピウス九世の誤謬表」まで含まれている。ローマ・カトリック者である筆者としては意外のことである。著者は信条と信仰告白の二語の意味を、信条 (creed) は「宗教的信仰の短い権威的な定式」、信仰告白 (confession) は「宗教的信仰の公式な声明」として用いるとしている(五四頁)。その意味で考えると、たとえば、第二ヴァティカン公会議のその後の流れを決定づけたもの



クレド

キリスト教の伝統における信条と
信仰告白の歴史的・神学的入門

J・ペリカン著
本城仰太訳



として『典礼憲章』に注目し、「信者が、キリストの神秘や真の教会がどのようなものであるか、生活の中で表現し他者に示すための主要な手段である」と典礼について宣言しているとの指摘(六五六頁)はまさしく正鵠を射ており、他の文書も含めてそれらはローマ・カトリック者のみならずプロテスタント諸教会と東方正教会のキリスト者、さらにはすべての現代人に対する信仰告白である。同じことが本書で取り上げられている、すべての信仰告白に言えるであろう。ここに「二〇〇〇年にわたってキリスト教会やキリスト者を生かしてきた信仰こそが伝統である」(六七四頁)とするペリカンの主張の表れを見ることができよう。

二〇二五年。三二五年にニカイアで第一回公会議が開催されてから一七〇〇年を迎えている。この節目の年にあたり、我が国でもそれを記念する催しが企画されているよう

である。この時期に本書が刊行されたのは、その意義を再考するためにも、真に時宜を得たこと、訳者ならびに出版社に感謝を申し上げたい。

当然ながら一七〇〇年前の公会議の信仰宣言が今如何なる意義を持つのか、との問いが発せられるであろう。本書の著者は「信仰告白宣言を欠くことができるのか」という問いに対して「たとえ以前の信仰告白宣言がもはや規範的なものとは考えられないと述べるだけのものであっても」、「できると考えるのは本質的に困難なこと」であると指摘し、譬えをあげて次のように本書を結んでいる、「レコードショップやリビングルームの棚にコンパクト・ディスクが積み上げられている時、CDほど静かなものはないだろう。その形式で出荷されて保存されれば、親から子、孫へ

と演奏されることも聴かれることもなく手渡され、不活性で字義どおりに何世紀にもわたって保存されるだろう。それらはカタログに記載されている売買商品である。それでも、まさにそれらの『不活性さ』と静的さが継続していることが、瞬時に、ベートーヴェンのカルテット、モーツァルトの魔笛、あるいはヨハン・セバスティアン・バッハのミサ曲口単調の『ニカリア信条』といった響きの中で突然、動的なものとなるのである。歴史的には、まさしくこのことこそ、信条と信仰告白が何世紀にもわたって繰り返して行ってきたことなのである。

そして、信条と信仰告白は、なおもこれを継続していくことができるのである」(六七〇―六七一頁)。

(おだか・たけし＝フランシスコ会司祭
(A5判・七八四頁・定価九四六〇円・教文館)

ヨベルの本 新刊/既刊案内

大貫隆 [著] 付録 荒井猷の学術研究
その功績と遺された課題 四六判上製・四一六頁・三〇八〇円

福音書の隠れた難所

旅に難所はつきもの。超えてこそ見える絶景!! イエスはなぜ禿鷲と死体を語るのか。ナゾラ人とは何者か。自身を「食い物」にせよとの人肉嗜食発言はどう解すれば良いか……。福音書に立ちはだかる5つの「難所」を取り上げ、研究者生涯を傾注して取り組んできた成果が結晶!

大貫隆の「隠れた難所」 反響

技術時代における宗教、キリスト教

金城学院大学名誉教授 竹田純郎 [著]

ただ巻き込まれるのか。抗する道はあるのか。現代世界を覆い尽くす数々の戦争や侵略行為は、既存の宗教によって正当化されて留まるところを知らず、人も自然も滅びの瀬戸際に立たされている。ルオーの絵画「キリストと漁夫たち」へと至る深い思索からその活路を鮮やかに描き出す。

技術時代における宗教、キリスト教 竹田純郎

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
https://yobel.co.jp (税込)

旧約学者が教える 聖書を読み解く鍵

〈評者〉真壁 巖



聖書のことば辞典
小友 聡著



今春、東京神学大学を退職された著者は、郷里である青森県黒石市に戻られた現在も日本旧約学会会長という重責を担われる大変優れた旧約聖書学者です。著者曰く「足掛け一五年の歳月を経て、ようやく本書を出版することができ」、「聖書のことば辞典」という書名の本となりました、とのこと。すでにある機関誌からの依頼によって四〇回も連載した「信徒のための旧約聖書基礎知識」に、さらに一〇項目を加え、計五〇項目のことば辞典となりました。

目次を見ると、〈愛〉から〈霊〉（五十音順）に至る各項目が三ページほどに纏められ、大変読みやすい内容です。

その証拠に「信徒のための」用語解説集であったはずが、教団教師検定試験の「旧約聖書神学」の受験対策にも活用されたとのこと。一読して、それを確かめました。

ただそれ以上に感心させられたことは、各項目のほとん

どでイエス・キリストとの関係に触れていることです。ここに「旧約聖書の基本用語を学ぶことによって、新約聖書への道筋がきちんと見えてくることを目指し」た著者の思いがあります。本書名に至った経緯もそこでした。

もちろん、すべてを解説することはできませんが、評者の特権でその内の幾つかを取り上げたいと思います。

まず〈安息日〉。「ユダヤ人が安息日を守ってきたのではない。安息日がユダヤ人を守ってきた」と言われるほど、主の民にとって大切な戒めです。そして主イエスが言われたとおり、「安息日は人のために」あります。これによって私たちも主（日曜）日に礼拝をささげるのです。

次に〈共同体〉。教会の起源がペンテコステにあると説く著者は、それはまさにモーセがシナイ山で神と契約を結んだ出来事の再現であるとしています。契約共同体としてのイ

スラエルは歴史的経過を経て地域共同体をつくり、それがキリスト教会のひな形になります。その後、キリスト者が「新しいイスラエル」と見なされるようになりました。

そして〈時〉。著者の専門はコヘレトの言葉の研究ですが、コヘレトの「時」は神が定めたカイロス（質的時間）であり、クロノス（量的時間）を生きる人間はそれをつかめません。それは神の秘義であって、人間には明らかにされないのです。だからこそ時間が神からの賜物であり、今の時をかけがえのないものとして生きているのです。

〈平和〉（シャローム）は昔も今も切実に求められます。毎日、血が流されている中東でもこの言葉で挨拶が交わされています（アラビア語でサラーム）。著者はこのシャロームをもたらず神が、救い主として到来するメシア信仰

こそ決定的に重要であると説きます。さらに平和をもたらず救い主が、自らを犠牲にしてそれを完成させます。真の平和は「彼の受けた懲らしめによって」与えられ、それは神の御子イエス・キリストを指しているのです。

実は、神学校を卒業したばかりの私が最初に遣わされたのが黒石教会でした。その教会の役員でもあり、中心メンバーであったのが著者のご両親でした。まだ若く、何も分からない私に、教会は単に人の集まりではなく、キリストの愛と赦しを注がれて遣わされ、再び帰る場であることを教えてくださいました。今も忘れることはできません。

（まかべ・いわお 日本基督教団西千葉教会牧師）
（四六判・一八六頁・定価一九八〇円・教文館）

ヨベルの新刊 / 近刊案内



現代において信仰はいかに可能か

神学博士・日本カトリック神学院
教授・日本カトリック神学会理事
阿部仲麻呂司祭推薦！
ヘーゲルと自身との親しさを深く看取し、ヘーゲルその人にありのままを語らせる！「不幸な意識」を乗り越えた鈴村さんの迫真の生き方が繰り出された言葉の数々によって「相手を慈愛深く支えようとする配慮に満たされた神からの励まし」が読者の心の底にも確かに響く！

鈴村智久「著」
現代において信仰はいかに可能か
四六判・二三八頁・定価二〇〇〇円



共生の神秘

金子晴勇「著」
キリスト教思想史の例話集Ⅲ
神秘的な特質はイエスが神を「父」と呼称したことから派生している。ルターは典型的な特質を神秘主義の区別・その神学の流れ・神秘的な合一点として私たちに示した。キリストとの人格的な交わりの豊かさを示す。
10月20日刊行予定 新書判・二五六頁・一五四〇円

金子晴勇「著」
共生の神秘
キリストのうちに、神と共に歩む。
【第3回記本】
キリスト教思想史の例話集Ⅲ

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 (税込)

悲しみに寄り添う言葉

〈評者〉 斉藤善樹



悲しみを道連れに生きる
25のヒント

H・ノーマン・ライト 著
前島常郎 訳



本書の原題は「Experiencing Grief」、訳すと「悲しみを経験する」です。その題の通り、著者のライト氏は私たちの悲しみの経験を具体的に描写しています。多くの読者は自分のことが書かれていると感じるのではないのでしょうか。人生で時に経験する深い悲しみは回復するのに長い時間を要することです。特に本書は愛する人を失う悲しみに焦点を当てています。著者自身が自分の子を失っており、また翻訳者の前島常郎氏は「訳者あとがき」で「ご長女を自死で亡くされていることを記しています」。

本書は新書版で全編135ページという小さな本であり、内容は二五章に分けられています。著者はそれぞれの章を通して、悲しみの経験のポイントを細かく描きます。例えば、このような章の題名があります。括弧は評者の注釈です。「痛みと否認（現実を避けます）」、「なぜ悲しむのか

（悲しみは目的を持っています）」、「答えを求める叫び（しばしば何故？と誰彼構わず問いかけますが、答えが得られなくても前進できると著者は言います）」、「自責の念（相手の死についての後悔）」、「口ににくい感情（自分にとって大きな負担でもあった人の死は安堵を伴うこともあります。受け入れましょう。）」、「怒り（悲しみや痛みとの反応として現れますが、怒りの対象は神のみにすべきです！）」、「複雑な死因（急な事故死、犯罪による死、自死などはその苦しみを二重三重にします）などですが、ほとんどの章は2〜4ページの構成で読むのに負担にならない量です。

悲しみの感情は、ごく自然に起こるものであり、読者は自分が悲しみのプロセスにあり、それが異常な経験ではないこと、悲しみのプロセスは、また回復へのプロセスだといふ事を知ります。一日に一章ずつ、ゆっくりお読みなっ

たらと思います。前述したようにあたかも自分自身のこと
が書かれているようで、また著者や訳者の経験の追体験を
するようで「わかる！わかる！」という気持ちをもって読
み進めると思います。

繰り返しますが、自分の経験が異常ではないこと、泣い
て一日を過ごすことが恥ずかしいことではないこと、やっ
と元気になったと思っていた矢先に突然襲ってくる心の痛
みは起こりうることです。悲しみには波があり、いつかは
回復して日常の生活が送れるようになることでしょう。著
者は、悲しみにある人が通るであろう道筋を順を追うよう
に書いていますが、読者は関心のあるものから読まれたら
良いと思います。22章以降は結びの部分です。意味深いア
ドバイスが述べられ、悲しみに別れをつけることを著者は

助言します。そこまでたどり着くのに2、3年のはかかるの
で、気を急ぐ必要はありません。悲しみに別れを告げると
は愛する人を忘れることでは決してありません。その人との
関係が無くなることでも、その人への愛情が薄くなると
いうことでもありません。今まで悲しみに費やしてきたエ
ネルギを今、別のものへのエネルギーへと転換させてい
くことです。すべてがもとに戻るということでもありませ
ん。喪失と共に新しい生き方を学ぶ時であり、新しい生活
が始まる時なのです。本書は悲しみの中にある読者に寄り
添うものとなることでしょう。

(さいとう・よしき) 東京聖書学院教授、東京聖書学院教会牧師、

CLSC 牧会ステーションスタッフ

(新書判・一三六頁・定価一、二一〇円・ヨベル)



植村正久と日本の教会

現代日本を植村正久と語る

崔炳一*著
Choi Byung-il



植村正久没後一〇〇年

教会形成に生涯を献げた植
村との対話をととして宣教
のあり方を問い直したい。

植村を批判的に継承し
その神学を今日に活かすために、
伝道の停滞と信仰の閉塞感を
打破するために、
キリスト教信仰が
今日の日本に深く根付くために、
多くの示唆を与えられる。

A5判・並製本

定価 3,300 [本体 3,000 + 税] 円

ISBN 978-4-86325-170-0



株式会社 一麦出版社

札幌市南区北ノ沢3丁目4-10

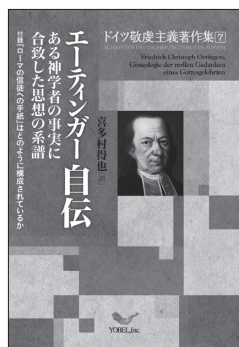
TEL (011) 578-5888

<http://www.ichibaku.co.jp>

携帯 mobile.ichibaku.co.jp

キリスト教史に投げかけられた 新たな光

〈評者〉 若松功一郎



ドイツ敬虔主義著作集7
自伝

ある神学者の事実に合致した
思想の系譜

エーティンガー著
喜多村得也訳



中世にはじまるドイツ神秘主義が、近代の観念論やロマン主義にまで影響を与えているということは、しばしば曖昧な仕方でも語られる。この曖昧さを取り除き、ドイツにおけるキリスト教史に新たな光を当てることのできる書物がとうとう登場した。ドイツ敬虔主義の中でも特異な地位を占める神学者、F・C・エーティンガーの自伝がここに出版されたのである。

エーティンガーは当時支配的であったライブニッツ・ヴォルフ学派の哲学が説く单子論的世界観に影響を受けながらも、そのみに満足することはなく、難解をもって知られる神秘家、ヤーコプ・ベーメの神秘主義に触れ、「至純の運動」という力動性において神と世界とを考えるようになる（本書80頁）。しかも、このように神秘主義の影響を受けつつも、彼はつねに聖書の言葉をよりどころとして、正統の信仰に留

まっている。こうしたエーティンガーの神学は、シェリング、ヘルダーリン、ヘーゲル、そしてゲーテやノヴァーリスにまで影響を与えたと言われている。エーティンガーの敬虔に於いて明晰な心が、信仰深き人々の心の底を流れるドイツ神秘主義の精神を捉え、近代人が理解できるよう語り直していく様子を、私たちは本書によって明瞭に確認することができるのである。

以上のことから分かるとおり、エーティンガーが重要視したのは、世俗の哲学のみならず、聖書そして神の摂理といった神祕的な事柄であって、これら三つの原理について、彼はそれらが自らの神学の基盤であると述べている。しかし三つの原理はどのように彼の神学を形づくっていったのか。エーティンガー神学の形成過程を知りたいと願う人々のこのような声に応えて記されたのが、まさしく本書なのである

(本書18頁、31頁)。こうした性質からして、本書は自伝として、エーティンガーの人物や当時の思想状況を伝える資料的価値を持つだけでなく、これからエーティンガー神学を理解するにあたってのきわめて良き解説書、入門書でもあるといえよう。エーティンガーが言及する思想には、先にも挙げた晦渋をもって知られるバーメのほか、錬金術、ユダヤ教の神秘主義であるカバラ、視霊者スウェーデンボルクの言説など、一筋縄ではいかないものも多い。しかし彼の神学は、当時の南ドイツのこうした特異な思想状況に育まれながらも、多様な思想の森の中で行方を見失うのではなく、かえってそれらを導き手として、キリスト教本来の精神に立ち返ろうとしているという印象を強く与える。

エーティンガーの神学はこのように深遠、ときに難解であ

るが、本書の訳はあくまで簡明であり、しかも格調を失うことがない。訳者である喜多村得也先生が本書に捧げられた努力は大変なものであったのではないかと拝察する。訳者は2023年に召天されたことである。先生の努力を思うにつけ、エーティンガーの息子ヨーハンが、亡き父に向け祈ったという次の言葉を思い出さずにはいられない(本書28頁)。

「教師であつた人たちは天の輝きのように輝くであろう。そしてその人たちは、多くの人々に義を指し示して、星たちのように不滅にして永遠である」。キリスト教史の重要な断片が、本書をもつてまた一つ語られたのである。

(わかまつ・こういちろう「立教大学兼任講師、新プラトン主義協会理事」)

(四六判・三〇四頁・定価二二一〇円・ヨベル)



《植村正久》を読む

木下裕也*著
KINOSHITA Hiroya



植村正久没後一〇〇年

植村における「宗教」と「キリスト教」の関係とは、その福音主義の内実とは、第一次資料に広く当たりながら検証し、考察する。植村の神学を客観的に見つめ直し、その限界を乗り越え発展させ、伝道が困難な教会に伝える今日、宣教する教会形成につなげたい。

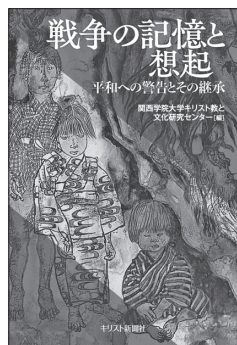
A5判・並製本
定価 3,080 [本体 2,800 + 税] 円
ISBN 978-4-86325-169-4



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

風化の危機にある過去の戦争を 現在化する意欲的試み

〈評者〉 寺園喜基



戦争の記憶と想起

平和への警告とその警鐘

関西学院大学キリスト教と
文化研究センター編



「過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも目を閉ざす者となります」。今から四〇年前、旧西独のヴァイツゼッカー大統領は国会でこう演説した。あれからさらに四〇年の今年、戦後八〇周年を迎えて、戦争の記憶が風化の危機に曝されようとしている中で、関西学院大学キリスト教と文化研究センターは「戦争と記憶と想起——平和への警告とその継承」というプロジェクトを立ち上げ、その成果を一冊の論文集にまとめた。この内容はいへん意欲的である。論文集の前半五本は研究員による主題に関する論考であり、後半の三本は実践に関する論考である。

テーマ全体の基礎として、ドイツのシュトゥットガルト罪責宣言を挙げられよう。これを論じたのが橋本祐樹氏『「想起の文化」とシュトゥットガルト罪責宣言』である。この罪責宣言は一九四五年という戦後最も早い時期に出さ

れ、確かにユダヤ人に対する罪責の明白な言及が欠如しているとは言え、しかしドイツ福音主義教会と世界教会にとつて和解と協働への重要な契機となったことは否定できない（一〇五頁）。

そしてこの罪責宣言から、その後の罪責宣言のうねりが起こっていく。すなわちダルムシュタット罪責宣言（一九四七年）、ラインランド州教会決議（一九八〇年）そして同年のヴァイツゼッカー大統領の国会演説・「第二次大戦終結四〇年記念日」が続く。さらに筆者の調べでは、ドイツ国鉄の罪責宣言（一九八八年）、ヴッパータール中央警察署にある警察の罪責宣言（一九九九年）、シンティ・ロマへの罪責宣言（二〇一二年）等もある。これらのうねりの起点にあるシュトゥットガルト罪責宣言について、橋本氏は諸教会によるエキユメニカルな応答に向けて、丁寧

論じている。

この線上にハンブルク警告碑聖ニコライがある。ハンブルクには以前から親交のある家族がおり、この聖ニコライ教会へは歩いて行けるので、何度も訪問している。そして内陣中央に飾られたココシユカのモザイク画「この人々を見よ」の前に座してしばらく黙想するのである。小田部進一氏の「ハンブルクの『警告碑聖ニコライ』の成立（一九七七年）」はハンブルクにおける戦争の記憶と想起について論じる。ハンブルクは第二次世界大戦の末期に大空襲によって民間人約四万人が犠牲となり、市はほぼ全滅し、「ドイツのヒロシマ」と呼ばれた。小田部氏は聖ニコライ教会が戦争の記憶と想起のシンボル、さらに和解と平和のシンボルになっていく過程について丁寧に解きほぐしてく

れるのである。

ドイツのみでなく、日本のことも取り上げられる。一つは、沖縄の佐喜真美術館における「沖縄戦の図」を通して沖縄における戦争の記憶と想起が論じられる。もう一つは、戦中、戦後における日本の賛美歌とその変遷を論じる。『讃美歌21』は、戦争を記憶し、想起する中から生まれてきた歌集であると考えられる」（八七頁）と。

さらにルワンダと再洗礼派、また平和学習の実践について、関西学院高等部、広島女学院、鎮西学院の取り組みが論じられる。字数の制限で全てに言及できないが、全体的に体重が乗っていると感ずる。乞う、ご一読。

（てらぞの・よしき 九州大学名誉教授、西南学院名誉顧問）

（四六判・一六八頁・定価一六五〇円・キリスト新聞社）

サンタクロースのさいしよのさいしよ 聖ニコラウスの ふしぎなちから

サンタクロースはトルコうまれ!?

鈴木郁子 作
吉田稔美 画



1800年ほど前にいまのトルコに生まれ、サンタクロースのもとになったキリスト教の聖人ニコラウス。いったいどんな不思議な力で人びとを助けたのでしょうか。聖ニコラウスにまつわるさまざまな伝説をめぐる物語絵本。

B5変型判・32頁・1980円

玉川大学出版部

〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1
www.tamagawa-up.jp <価格税込>

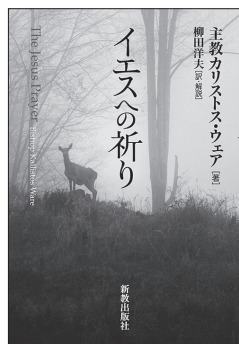
常に信徒の身近にあるべき 祈りへの格好の入門書

〈評者〉松島雄一

「主イエス・ハリストス神の子や、我罪人を憐れみ給え」

評者は正教信徒ですので、日本正教会で親しまれ続けてきた翻訳で「イエス（イエス）の祈り」を冒頭に掲げさせていただきました。「イエスの祈り」は、古代教会から積み重ねられてきた斎（ものいみ・断食）期間の奉神礼（典礼）の伝統が、11世紀頃に集大成され今日のかたちに確立した「大斎祈祷」の対極をなすもので、両者相まって正教の祈りの伝統の「多様性と一致」を証しています。大斎の奉神礼が信徒の日々の信仰生活（主に飲食）まで含めて教会共同体全体で組織的に実践されるのに対し、教会暦の特定の期間だけではなく、共同体の信仰生活を支える個々の信徒の身近に常にある、またあるべき祈りです。

私たち信徒はことあるごとに、この短い祈りを口心に



イエスへの祈り

カリストス・ウエア主教著
柳田洋夫訳



繰り返し唱えながら、胸に心に十字を描いて、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」（マタイ28・20）と約束して下さった主イエスのもとに立ち戻ります。しかしそれはイエスに何かを「祈願」する祈りではありません。カリストス主教は、それについて、毎日教会で何時間も何もせずに過ごしていたある老人の逸話を通じて紹介しています。

「そこで何をしてるんだ」と尋ねた友人たちに老人は「祈っているんだ」と答えます。友人たちが「神にお願いが一杯あるんだね」と言うと、老人は答えます。「何も願っていない。ただ座って神を見ている。そして神も座ってわたしを見ておられる。」（本書10頁）

カリストス主教はこの老人の祈りを「それはただ見つめるといふ祈り」と述べ、そこに「イエスの祈り」に底流

するものを見えています。

こんな「イイススの祈り」は西方世界ではサリンジャーの『フラニーとズーイ』で、この祈りの実践を伝えるロシアの一庶民の手記『無名の巡礼者』——あるロシア人巡礼の手記』（A・ローテル、斎田靖子訳、エンデルレ書店、一九九五年）とともに紹介され、広くキリスト教徒以外の人たちにも知られるようになりました。ただ我が国ではまだよく知られていません。本書はこの祈りの歴史や、信仰的な意味、さらに実践方法にまで触れた格好の入門書と言えますでしょう。

最後に、祈っている時にしばしば心にすべり込んでくる「雑念」に悩まされがちな私たちのために、カリストス主

教は次のように「イイススの祈り」を処方してくれます。

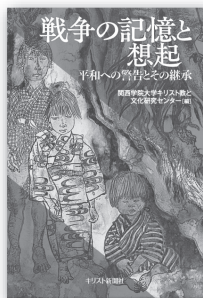
「（そんなとき）『考えるのをやめろ』と自分に言い聞かせたところで、ほぼ無駄です。意志の働きだけで脳内のテレビを消すことはできません。人間の心は、何かしなくてはならないのです。解決策は、単純で求心力のある仕事を心に割り振ることです。そのようにして、活動してやまない心を満足させるのです。それはつまり、イエスの聖なる御名を繰り返し、呼ばれることです。」（本書49頁）

（まつしま・ゆういち 大阪ハリストス正教会司祭
（小B6判・一三〇頁・定価一八七〇円・新教出版社）

戦後80年の今こそ

戦争の記憶と 想起 平和への警告とその継承

関西学院大学
キリスト教と文化
研究センター◎編



戦争体験者の時代が終わろうとする今、薄れていく記憶をどのように保存し、想起していくのか。凄惨な記憶から生まれた声を未来へとつなげていくために何ができるのか。

国内外の多様な想起の現場からその知恵を探る8つの論考。

四六判・並製・168頁、定価1,650円(税込)

キリスト新聞社 since 1946

〒112-0014 東京都文京区関口1-44-4 7F
03-5579-2432 support@kirishin.com

子どもと共に育つ 教会を目指して

〈評者〉レオン 蔡香



子どもと育ちあうために
「どうしよう?」と悩むときの
ヒント
村上純子著



子どもたちや若者が集う教会は、生き生きとした命とエネルギーにあふれています。しかし、実際に子どもたちと接すると、大人が戸惑うような行動に遭遇することも少なくありません。「子どもは教会の宝物」と信じていても、その宝物をどのように守り、どう愛せばよいのか迷う瞬間もあるのではないのでしょうか。そんな時に心強い助けとなってくれる良書が出版されました。著者の村上先生は、ご自身が教会学校で育てられた経験を持ち、スクールカウンセラーとして長年子どもたちに向き合ってこられました。その豊かな経験と最新の心理学的知見に基づき、読者にあたかく語りかけながら、困難な場面での具体的な解決のヒントを与えてくれます。

本書の前半では、子育てにおける中心的な課題について語られています。例えば、子ども特有の考え方、子どもが

本来に必要としていること、褒め方や叱り方、子どもとの距離感など、子育てにおける永遠のテーマが並びます。各課題について、子どもの視点で見えない世界に目を開かせ、何が本当に必要なかを整理してくれます。各章は短いので、子育てに忙しい親御さんにも読みやすく、悩みや疲れを抱えた心がほぐれ、行き詰まりを感じた時には、解決の糸口を見つけることができるでしょう。また、子育て世代の周囲にいる人々にとっても、親御さんたちを支えるためにできることを見いだせる内容となっています。

後半では、教会学校における子どもたちとの関わりに焦点が当てられています。まず、一般の学校とは異なり、競争も成績もなく、子どもたちが「評価される必要のない場所」としての教会学校の特別な役割が明確にされます。そこは、神さまや聖書、祈りについて教えられる場であると

同時に、一人ひとりがあるのままで受け入れられ、愛され、各自のペースでの成長が見守られる場所です。この役割を果たすために、教会学校が子どもにとって居心地のよい場所であることが何よりも大切だと、著者は語ります。その理解に基づいて、教会学校で遭遇しがちな「困った行動」について、具体的な例が取り上げられています。そして、その行動の背後にある子どもの心や背景、そうした行動に至る理由が丁寧に解き明かされ、実践的な対応策が提案されています。例えば、落ち着きのない子、ふざけてしまう子、マイルールにこだわる子、嘘をついてしまう子など、それぞれの子どもを理解し、大切にすることはどういうことを、著者と共に考えることができるでしょう。

子どもを育てるとは、大人とは異なる世界を持つ子ども

神学ダイジェスト138号

急速な変化を遂げる現代社会。その中にある、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2025年6月発行
A5版128頁
定価638円(税込)

特集 カトリック教会における男性性

巻頭言 教会における公正な人

男性性を再構築する神学

教会の中の男性性と性虐待

男性のための霊的同伴

司祭職を廃止せよ

プーチンとロシア正教会のイデオロギー

日本の教会の女性感覚と男女協働

ルカ福音書のとえ話における内的独白

を知り、尊び、一人ひとりのニーズに合わせて関わっていくことです。それを親御さんだけで担うのではなく、信仰の共同体の祈りと助けと協力の中で共に担っていくことによって、親が親として、大人が大人として成長し、子どもも大人も共に育つ教会の未来が開かれていく——本書はそのことを示唆し、その道を歩むための具体的な手引きとなってくれます。子どもと共にあり、共に育つ共同体を目指すすべての教会、すべての方に、ぜひ手に取っていただきたい一冊です。

(れおん・さいかおり＝宣教師、牧会カウンセラー)
(四六判・一三六頁・定価一六五〇円・日本キリスト教団出版局)

酒井 陽介

H・アンダーソン

J・H・ルビオ

D・ピンソ

J・キャロル

N・デニセンコ

石川 治子

P・セル

上智大学神学会
神学ダイジェスト編集委員会
東京都練馬区上石神井4-32-11
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

信仰に言葉を与え、民の視野を 広げる第二・第三イザヤ書

〈評者〉 並木浩一

昨年秋に出版された『イザヤ書を読もう』上に続いて、本書下巻の刊行により、イザヤ書の構造と信仰を語る珠玉の解説書が完結しました。イザヤ書研究の専門家である著者はこの書物の成立経緯を追跡し、この書物の全体と個別の預言詩から使信を聞き出すことに力を注いできました。本書はその最後の試みでしたが、著者はその出版を待たずに惜しくも昨年末に召されました。著者がイザヤ書の使信を解き明かす説得的な姿勢と静かな語調とが、読者に心地よい印象を残します。読者の信仰生活に寄与したいと願う著者の思いが、読者の心に届くからでしょう。

本書が取り上げる第二・第三イザヤ書（40～55章、56～66章）は捕囚帰還後の無力な国民に対して、新しい信仰の民の建設を目指して、力強く美しい言葉を語る預言詩群です。第二イザヤ書はその終わりで、歴史を導く神に信頼し

イザヤ書を読もう

慰めよ、私の民を

大島力
OSHIMA Chikara



イザヤ書を読もう 下

慰めよ、私の民を

大島 力著



て祖国への帰還を促した一人の指導者の苦闘と死を語って、彼の働きを積極的に受け止めるようにと促します。後代、初代教会の人々はその詩文から、十字架上に死んだイエスが人々の罪を背負った救い主であるとの確信を深めました。定着後に記された第三イザヤ書は、定着開始時の人々が在地の支配者たちの横暴に屈することなく共同体を形成するようにとの、彼らの主の励ましの言葉を語ります。また、彼らの努力を目撃してイスラエルの神に信頼する周囲の人々は誰でも、民族間の壁を越えて信仰の民に加わることができるといふ普遍的な主張を力強く打ち出しました。その精神は後代、普遍的なキリスト教教会の形成に寄与しました。またこの書においては、神殿は宗教心を満足させる施設ではなく、自民族とすべての民にとっての「祈りの家」（56・7）でした。その信念はイエスに継承されまし

た。キリスト教は第二・第三イザヤ書によって準備されたと言えるでしょう。

第二イザヤ書はイメージ豊かな詩文を特色としますが、著者は文学的鑑賞に止まることを避けて、テキストを生み出した時代と現代に共通する課題に読者の関心を向けさせます。その一例を挙げましょう。かつてルターは「イスラエルの神、救い主よ まことに、あなたはご自分を隠される神」(45・15)という一句に基づいて、「隠されたる神」という独自の理解を掘り下げましたが、著者は神学的議論を避け、人々がバビロニアにおいて体験し、現在も直面する「偶像礼拝」という現実的な課題を提示します。偶像礼拝は単に礼拝対象の選択ミスではなく、本質的には自由な神を自分たちの救済欲望に閉じ込めて「自由な神」を抹消

する行為です。イスラエルの民は自分たちに都合の良い神を求めながら、捕囚からの解放を期待しました。第二イザヤはそのような罪の現実を見据えつつ、民の解放を神による一方的な民の贖い出しとして理解しました。偶像礼拝の問題は今なお今日の問題です。

病床での著者の依頼に応えて、編集者の土肥研一氏が著者への敬意に満ちた「あとがきにかえて」を書き添えました。それによれば著者はテキストを生み出した歴史的文脈と現在の文脈とを大事にし、恩師左近淑先生の学風を引き継ぐ仕事をしたと願っていたとのことです。本書は著者がその実践に取り組んだ最後の機会となりました。本書の出版を慶びます。

(なみき・こういち) 国際基督教大学名誉教授

(四六判・二〇八頁・定価二六四〇円・日本キリスト教団出版局)

バルトによる説教論

聖霊に導かれる説教黙想とは何か

上田光正



カール・バルトから、真に「キリストを語る」説教に必要な神学と、聖書のメッセージを正しく聴き取るための「追思考」(説教黙想)の実践を学ぶ。

A5判 並製・184頁・定価3080円

イザヤ書を読もう下

慰めよ、私の民を

大島力



イザヤ書通読の必携書、完結！イザヤ書の専門家であり、熟練の説教者である著者が第二イザヤ、第三イザヤに記された暗い時代に輝く福音を読み解く。

四六判 並製・208頁・定価2640円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457

E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)

<https://bp-uccj.jp>

次世代への平和教育のために

〈評者〉岡田 仁

今年は「戦後八〇年」という節目の年にあたる。しかし、アフリカ・中東・アジア・欧州などにおいて紛争や戦争が続いており、難民・国内避難民の数は一億を超える。二十世紀の現代において、戦争状態はなお継続しているといえる。

主イエス・キリストの十字架と復活の福音に基づく「和解の務め」や「平和構築」の使命を託されているキリスト者にとって、このような現実にはまさに重大な課題であり、深刻な挑戦である。キリスト教会は、平和の福音を宣べ伝えるために何を、どこから始めるべきなのであろうか。

本書は、著者が属する日本キリスト改革派教会の聖書日課雑誌に連載した文章を加筆修正したものである。人文・社会の視座から平和と倫理の諸課題に迫る著者は、理論と実践を往復する新進気鋭の研究者であり、評者が常日頃より敬意を抱く一人である。このたびの刊行を心から喜びたい。

今、「平和」とは何か

戦後八十年のキリスト教平和学入門

καὶ εἰς
カイトスブックス

豊川 慎

Shin Toyokawa

戦争がない状態＝平和なのか。ロシアのウクライナ侵襲、深刻化するイスラエル・パレスチナ紛争、「戦争の時代」と言われるを得ないような国際情勢だけでなく、差別・偏見・同僚など「暴力」がはびこる現代で「平和」をどう考えるべきか。

いのちの出版

今、「平和」とは何か

戦後80年のキリスト教平和学入門

豊川 慎著



本書の構成と主要なテーマは次のとおりである。

- 第一章 「平和学」とは何か
- 第二章 キリスト教の戦争観
- 第三章 イスラエル・パレスチナ問題から考える平和
- 第四章 平和学から考える平和教育
- 第五章 河井道に学ぶキリスト教平和教育
- 第六章 沖縄から考える平和
- 第七章 戦争の記憶の継承と英連邦戦没捕虜追悼礼拝
- 第八章 核兵器廃絶とキリスト教
- 第九章 日韓関係から考える平和と歴史認識
- 第十章 日本のキリスト教会の戦争責任と罪責告白
- 第十一章 南アフリカから考える平和の諸課題
- 第十二章 平和的生存権と政治的課題としての平和構築

本書の特色は、平和を考えるうえで欠かすことのできない



日本聖書協会

God's Word — Life for the World

N・T・ライトによる子どもから
大人まで楽しめる聖書物語

わたしの 聖書物語

神さまの大いなる計画



N・T・ライト：著

ヘレナ・ペレス・ガルシア：画

標珠実：訳

天地265×左右215mm

厚さ24mm 296頁

税込価格 **3,960** (3,600+税) 円

ISBN978-4-8202-9288-3

英国の著名な神学者 N・T・ライトが贈る今までにない聖書物語。創世記からヨハネの黙示録までのそれぞれの小さな物語がひとつの大きな物語——すべてを正しい姿にもどし、天と地をひとつにするという神さまの大いなる計画——を織りなしています。



お求めは全国のキリスト教専門書店
お問合せ ☎03(3567)1987 (頒布部)
<https://www.bible.or.jp>

重大なテーマで構成されているだけでなく、内容的に高い水準を保ちつつも平易な言葉で論じられている点にある。

第一章で、平和学の意義と背景、目標が紹介される。「平和学」とは、「平和について学問的に探究する分野」であり、「平和について問い、考える際に、『平和学』からの知見に学ぶことはたいへん有益」(p8)であるという。とくに「平和学の父」ヨハン・ガルトウングの思想を踏まえつつ、ヤマトと沖縄、東アジアの文脈において「平和」をいかにとらえるべきかが丁寧に考察されている。平和学が、広島・長崎への原爆投下を契機に生まれたことを評者は初めて知った。また、聖書に基づく人格教育 (p45) や著者が名づけた「領域主権論的平和構築」(p99) など、大学でキリスト教教育に携わる者として、深く共鳴した。「時が良くても悪くても、

平和教育の種を希望とともに蒔き続ける」という不断の姿勢の重要性に改めて気づかされた次第である。

全十二章なので、教会や学校での月毎の勉強会のテキストとしても本書は最適である。また、もつと深く考察したい読者のために、「さらなる学びのための参考文献」が章末ごとに紹介されている。和解と平和の実現を強く願う著者の意図と目的がここにも反映されている。

教会が平和の本質に深く向き合い、神の御心を探るために、本書は最良の手引きである。その意義は大きく、必読の一冊である。本書が広く読まれ、キリスト教平和学の次世代が育まれていくことを強く願ってやまない。

(おかだ・ひとし 明治学院大学教養教育センター教授)
(四六判・一〇四頁・定価 一一〇〇円・いのちのことは社)

既刊案内（2025年6月～2025年7月）

編・著・訳者	書名	判型	頁	定価(税込)	版元	発行日
江口再起	ルター入門 ——生涯と思想	A5	216	1,980	ヨベル	5/29
大頭眞一	焚き火を囲んで聴く神の物語・新約聖書説教篇2 わたしを誰と呼ぶか ——マルコの福音書2	新書	282	1,650	ヨベル	6/10
H.ノーマン・ライト著 前島常郎訳	悲しみを道連れに生きる25のヒント	新書	136	1,210	ヨベル	6/21
フィルマンシャー・アント ニウス、酒井陽介編	平和をもたらす者は幸い ——上智大学神学講習会	四六	176	1,980	ヨベル	6/24
湊晶子	あしたは必ず来る ——明治から現代までのファミリー ヒストリーを辿りつつ	A5	98	1,100	教文館	6/11
A.カイパー著 日本カルヴィニスト協会訳	カルヴィニズム	四六	300	2,860	教文館	6/18
上田光正	バルトによる説教論 ——聖霊に導かれる説教熱想とは何か	A5	184	3,080	日本キリスト 教団出版局	6/20
大島力	イザヤ書を読もう下 ——慰めよ、私の民を	四六	208	2,640	日本キリスト 教団出版局	6/25
大野恵正	私が出会った人々 ——神の庭にて	四六	190	1,980	新教出版社	6/24
主教カリストス・ウェア著 柳田洋夫訳	イエスへの祈り	小B6	130	1,870	新教出版社	6/24
山本清	イエスに出会った人びと 上巻	A5	440	3,300	一麦出版社	6/28
山本清	イエスに出会った人びと 中巻	A5	466	3,520	一麦出版社	6/28
山本清	イエスに出会った人びと 下巻	A5	484	3,740	一麦出版社	6/28
関西学院大学キリスト教 と文化研究センター編	戦争の記憶と想起 ——平和への警告とその継承	四六	168	1,650	キリスト新聞社	7/2
黒川知文	トロイカ人生に導かれて ——黒川知文自伝	四六	294	1,870	キリスト新聞社	7/16
エーティンガー著 喜多村得也訳	ドイツ敬虔主義著作集7 自伝 ——ある神学者の事実に合致した思想の系譜	四六	304	2,310	ヨベル	7/9
小林重昭	三要文講解 ——十戒・主の祈り・使徒信条	A5	500	3,080	ヨベル	7/17
日本カルヴァン学会編	日本カルヴァン学会誌 カルヴァン研究 第2号	A5	104	1,650	ヨベル	7/25
デシデリウス・エ ラスムス、マル ティン・ルター著 竹原創一訳	宗教改革の焦点 00 デシデリウス・エラスムス『自由意志 について、評論あるいは比較検討』×マ ルティン・ルター『奴隸的意志について』	A5	460	9,680	一麦出版社	7/12
ジョン・T・マクニール著 高内義宣訳	カルヴィニズムの歴史と特徴	A5	660	15,180	一麦出版社	7/26
ハム・ロイ、モイラ・フネル著 赤坂桃子訳	ロゴセラピーのレッスン ——フランクルの21の知恵	B6変	130	1,870	新教出版社	7/18
加藤常昭	ハイデルベルク信仰問答講話	B6	550	4,950	教文館	7/23
E.ユンゲル著 佐々木勝彦訳	世界の神秘としての神 ——有神論と無神論の論争における、十字架 にかけられたお方の神学の基礎付けのために	A5	732	14,080	教文館	7/23
山田望、袴田玲、坂 田奈々絵、山田順 キリスト教史学会監修	古代・中世キリスト教における 女性イメージ	A5	268	4,070	教文館	7/25
小島誠志	信仰の旅路 ——伝道メッセージ集	四六	200	2,640	日本キリスト 教団出版局	7/24
越川弘英編	信仰生活ガイド 教会、その破れと再生	四六	128	1,540	日本キリスト教 団出版局	7/25

書店名	郵便番号	住 所	電 話	フ ァ ャ ッ ク ス	U R L	メ ー ル	郵便振替
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenritan_s_yoten_0530@yahoo.co.jp	02350-0-874
エッセイの木	980-0012	仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ1F	022-223-2736	022-302-6678	https://essainoki.jp/	shop@essainoki.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉中央区新堀3-2 千華クリスチャセンビル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimdo.com/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス東京	169-0051	新橋区早稲田23-18A/A00ビル2F(通称専門)	03-3203-4137	03-3203-4186	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	112-0014	文京区関口1-44-4京屋関口ビル日本館内(外販専門)	03-3260-5663	03-3260-5637		tokyo@nikkiban.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.tokiglobe.jp/~yokohama/js/index.html	sksch@mvva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	466-0045	名古屋市中区大須1-16 日本キリスト教団大須教会内	052-680-8090	052-680-8091	http://nagoya-seibunsha.la.cococan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
バイブルハウス京都	606-0007	京都市北区西門外2-87 日本キリスト教団西門外教会(外販専門)	090-5138-7020	075-320-1844		kyoto-jbs@bible.or.jp	01010-2-594
バイブルハウス堺	591-8023	堺市北区中百舌鳥町2-87 チャペルこつり2F	072-255-4970	075-255-4971		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店(聖燈社)	591-8044	大阪府堺市北区长尾町2丁1-18	072-254-2233	共用		sakaixx@outlook.jp	00970-0-172228
神戸キリスト教書店	650-0025	神戸市中央区港地145-12 神戸駅前Aビル401	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkiban.co.jp	00170-2-421390
広聖聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道/西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwbt3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/matsuyama_1007/index.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店/ハレルヤ	862-0971	熊本市中央区大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacbs.net	info@okinawacbs.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販売部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

福音と世界

2025年10月号

特集Ⅱ「ファナティズム」

「狂信」と「熱狂」の狭間で

寄稿者Ⅱ布施哲、マニエル・ヤン、相川裕亮、
哲学コレクティブ「数行」、山本敦久、高田怜央

◆時評（阿部仲麻呂） ◆連載 人物・日本キリス
ト教史（戒能信生）／ほやき牧師のさすらい説
教録（富田正樹）／異端者の世界航海（福岡揚）
証言としての旧約聖書（田島卓）／新約釈義ル
カ福音書（山崎ランサム和彦）、他

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyo-pb.com

編集室から

先日SNSで、数冊の漫画を合体

させて革装の上製本に仕立て直すという動画を目にした。ストーリーを

彷彿とさせるデザインの革表紙をま

とったその姿は、全く別の輝きを

放っていた。そんなことがあり製本

所が主催する「手製本体験会」というものに参加してきた。

上製本と呼ばれる、いわゆるハードカバー本を手作業で

作る体験会だ。作業自体は単純。本文用紙を機械で綴り合

せたブックブロックと呼ばれる状態の本文と、表紙、見返

し、花布、スピン（葉）といった資材たちを、ボンドや膠（にかわ）

で貼り合わせる。簡単な作業に見えて、天地左右を綺麗に

揃え、シワなく美しく作り上げるというのは意外に難し

かった。機械製本が主流のこの時代も、手製本の技術は、

予告

本のひろば

2025年11月号

本・批評と紹介

（巻頭エッセイ）『人生の旅の同行者に感謝！』津
村春英（書評）大野恵正著『私が出会った人々』、
F・M・ヤング著『ギリシア教父の世界』、近藤
勝彦著『日本キリスト教神学小史』、竹原創一訳
『デシデリウス・エラスムス』自由意志について、
評論あるいは比較検討』×マルティン・ルター
『奴隷的意志について』他

製品化前の「東見本」を作る現場や、革装など特別な装丁
を施す場で継承されているという。

表紙にややシワのある手作りの上製本を愛でていると、

いつか上司が京都の本屋で一目ぼれして買ったという詩集

を手にとった日を思い出した。スリーブケースから取り出

すと、しっとりとした手触りの表紙、水墨画のような美し

い装丁、余白を大きく取った一文字一文字を大切にしたよ

うな組版——ずっと触れていたい、眺めていたいと思った。

本の価値は中身にあるとばかり思っていたが、工芸作品

としての価値というものを改めて知る機会となった。長い

時を読み手と共に過ごす聖書のように、一冊の本が「読む

もの」であると同時に、愛でられながら、共に人生を旅す

る「同伴者」になるために、本づくりの現場で何ができる

だろうか、思いめぐらしている。

（桑島）

聖書
ぬりえ

イエスさまについていこう



金斗鉉 イラスト

子どもも大人も楽しめる聖書ぬりえ第2弾。「魚のなかのヨナ」「カナの結婚式」「山の上でのお話」など、聖書における22の名場面のぬりえを収録。

◆B5判 並製・48頁・定価1,100円

好評 発売中 「聖書ぬりえ かみさまといつもいっしょ」
金斗鉉 イラスト 定価1,100円



聖書ぬりえの
ぬりえ作品を大募集！

応募者全員に「バツレヘムへのたび アドベント・カレンダー」
(小塩 節文 金斗鉉 絵) をプレゼント！ 詳しくはWEBをご覧ください。



星に導かれて 待降・降誕・公現

日本キリスト教団出版局 編



2025年9月25日刊行予定

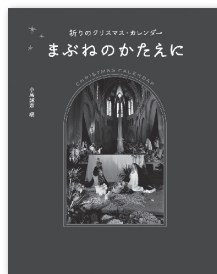
好評発売中 「涙の夜 喜びの朝―受難・復活・
聖霊降臨」 日本キリスト教団出版局 編 定価1,540円

『信徒の友』「こころの友」12月号掲載
の記事から厳選されたクリスマス・
ショートメッセージ集。執筆者それ
ぞれの思い出を交えながらクリスマ
スのみ言葉を説き明かす。
◆四六判 並製・112頁・定価1,540円

まぶねの かたえに

祈りのクリスマス・カレンダー

小島誠志 編 小林 恵 写真



アドベントの
黙想にどうぞ

2025年9月22日刊行予定

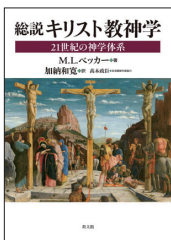
「信徒の友」掲載の祈りから25の祈りを
精選して写真を添えた祈り集。12月1
日からクリスマスまでの日々を、クリ
スベなどの写真と祈りの言葉でたどる。
贈り物にも最適。フルカラー。
◆A5判変型 並製・64頁・定価1,540円

総説キリスト教神学

21世紀の神学体系

M・L・ベッカー「著」 加納和寛「訳」

信仰の有無を問わず、教養としても学べる神学総論



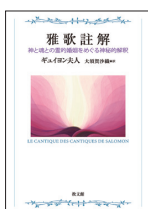
グローバル化する現代世界の中でキリスト教はこれからどこへ向かうのか？ 神学諸科の構造、神の实在、聖書とその解釈、教理の体系、信仰の本質、自然科学との対話など——諸科学との対話を通して、キリスト教の思想・制度・歴史を批判的に考察しながら、その現代的意味を学ぶ。学術的神学の可能性を切り拓く画期的な書。

●A5判・994頁・定価13,200円

雅歌註解

神と魂との霊的婚姻をめぐる神秘的解釈

ギユイヨン夫人「著」 大須賀沙織「訳」



旧約聖書における異色の相聞歌を内的意味から解釈し、神と魂の合一という至高の境地へと誘う霊的探求の書。17世紀フランス静寂主義の核心をなす、深遠なる啓示のテクスト。

●四六判・302頁・定価3,080円

ヒューマニズムということ

街角のキリスト教人間学

原敬子「編」

●四六判400頁・定価4,180円

誰にでも開かれたヒューマニズムを探索する試み。人間性の回復をもたらす「新しいヒューマニズム」の創出という視点から、宗教・学校教育の意義と可能性を考究する。

9月の新刊 ●価格表示は税込

十字架上のイエスに 向けられた七つの言葉



いばらの冠と愛の炎

イエスの十字架の意味と聖霊の働き

N・T・ライト「著」 本多峰子「訳」

母マリア、ピラト、百人隊長など、イエスの受難の傍らにいた人々の言葉を取り上げた、類のない説教集！ 新約聖書学の大家による新たな十字架の読み解き。

●四六判・220頁・定価2,750円

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
電話 03-3561-5549 (出版部直通) 《呈・図書目録》

キリスト教の書籍やCD、グッズのご注文は「e-shop 教文館」
<http://shop-kyobunkwan.com/> まで！



本のひろば.com



一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇二五年一〇月一日発行 (毎月一回一日発行)
本のひろば 第八一四号 二〇二五年一〇月号

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口一四四一四 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3361-6510 振替0170-511679
発行人 金子和人 編集人 村上信児 印刷所 モリモト印刷
発売所 日本キリスト教書販株式会社 電話03-3361-5670

定価七八円 (税抜七一円) 〒63円
一年分二〇〇円 (送料共)